

### 第3回庄内町立図書館協議会 会議録(要旨)

開催日時 平成31年2月26日(火) 午後6時00分 開会  
午後8時00分 閉会

開催場所 庄内町立図書館 2階会議室

出席者 出席委員 6名 小野寺姫、小野寺博、松田透、舘林由美子、高梨道明、仲條一志  
欠席者 欠席委員 1名 信夫 幸  
事務局 社会教育課 課長 上野 英一  
庄内町立図書館 館長 渡會 晃  
庄内町立図書館 主査兼係長 佐藤 晃子  
庄内町立図書館 主任 横田 祥子

#### 議事日程

- 1 開会 以下進行 事務局
- 2 あいさつ 図書館長

小野寺委員長 おはなしらんどを今年度初めて内藤秀因水彩画記念館で開催した。このような形で様々な取り組みが図書館整備基本計画につながっていくのだと実感した。  
本日は今年度の振り返り、新年度の計画ということで協議をお願いしたい。

- 3 報告事項 庄内町立図書館整備について  
事務局より、進捗状況の説明。前回の本協議会后、11月26日の教育委員会定例会にて庄内町立図書館整備基本計画が議決され、その後12月に議員の方々にも同計画を配布した旨を報告。  
更に、前回の協議会内で提案された意見をもとに修正された部分について説明。  
また、次年度予算に地質調査および基本設計委託料、図書館アドバイザー謝礼を計上しており、3月議会定例会にて審議されることを報告。

- 4 協議事項 座長 委員長

(1) 平成30年度庄内町立図書館・内藤秀因水彩画記念館における事業総括について  
資料に基づき事務局が説明

委員 新刊図書について。広報に掲載されているが、他にも購入されているのか。  
事務局 広報に掲載しているのはほんの一部である。

- 委員 多くの本を購入していても、実際来館し目で確認しないと、どんな新刊が入っているのか利用者は分からないし伝わっていない。
- 事務局 OPAC（オンライン蔵書検索システム）について説明。Web予約件数増加（約1.5倍）等、利用実績について報告。
- 委員 広報「みんなの図書館コーナー」について。誰が見ても読みたいといった話題の本を選書し掲載することで、誘客に直結する。掲載本の選書の際には、広報に載せる意味を十分吟味して欲しい。
- 事務局 以前は広報を見て読みたくなったから来館した、という利用者が多数いたが、最近は少ない。広報に掲載している内容や選書が、町民のニーズに合っていない部分があるのかもしれない。今後、検討・改善していく。
- 委員 民放TVなどで、毎週ブックランキングを放送しており、住民の関心は高い。メディアで紹介された本が図書館にあることもPRしていくと、誘客につながるのではないか。
- 事務局 メディアで取り上げられた本についての情報ツールはあり、ある程度参考にしてはいるが、今後はそういった観点でのPRも検討していく。
- 委員 本屋大賞の本は所蔵されているか。
- 事務局 例年全ノミネート作品を購入しており、非常に需要が高く、予約待ちである。
- 委員 広報で、そういった本があるということをタイトルだけでもいいので発信すべきではないか。インパクトがある。
- 委員 事務局の説明に、最近は広報を家庭内で全世代・全員が見る習慣が無くなりつつある、とあった。自分は、紙媒体ではなく、スマホで町HPからPDFをダウンロードして見ている。若い世代はそういった形で見ると多くなっていると思うが、PDFだとスマホ容量を圧迫する。より若い世代に浸透させるには、PDFではなくHP上でも、文字情報にしたほうがいいのではないか。
- 事務局 紙媒体からスマホへ情報入手がシフトしている中、貴重なご意見である。担当課とも共有したい。  
図書館のHP上での新刊・新着情報の発信方法に関連し、図書館HPの構成と、そこからつながるOPAC（オンライン蔵書検索システム）の構成について詳細を

説明。

委員 OPACで検索する際、書名や作者等の「あいまい検索」ができず、不便さを感じる。

事務局 他の検索エンジンと比較し、確かに精度は低い。当館で採用しているパッケージだけでなく、蔵書検索システム全体の完成度に課題があると思う。

委員長 誘客につなげる情報の発信方法については、今後も引き続き課題として検討してもらいたい。

委員 12月補正予算にて、記念館第1収蔵庫をリニューアルした。議会や町当局の反応はどうだったのか。また、古文書等の管理を含め、今回の予算措置で記念館の収蔵部分の課題が全て解決された訳ではなく、今後も引き続き対応が必要だが、その共有化は図られているのか。図書館整備とはまた別途の対応が必要であるとの認識は、共有できているのか。

事務局 ふるさと応援基金事業実施までの手順や経過について説明。12月議会では質問や意見は特段出されなかった。財政担当には、今回の事業での収蔵庫内の環境整備は、課題の中の一部の対応であること、今後も継続的な対応が必要であることは伝えている。

(2) 平成31年度庄内町立図書館運営計画(案)について

(3) 平成31年度庄内町立図書館協議会年間計画(案)について

(4) 平成31年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画(案)について

資料に基づき事務局が説明

委員長 「図書館まつり」について。日程を、他機関の事業等と重複する秋からクリスマス時期に変更したのは理解できる。読書の秋、という概念にとらわれず、誘客に努めて欲しい。

委員 「家読」に関連して、家庭内での読書実態としては、親が本を読む習慣が無く、ゲーム等をしている姿が見られる。町として、子どもの人生にとって読書が大事だということを大々的にアピールすべきと考える。そのためには、PTAへの働きかけが重要になる。家庭での生活の全体を見直し、ネットに費やす時間を短縮し、そこに読書を入れて欲しい。親自身がやらないと、子どもには伝わらない。できれば町全体で親が本を読む大事さを発信し、それを子ども達へと伝えていきたい。

「調べ学習」に関して、自分が興味・関心を持ったものを調べたりできるコーナーの設置を求めたい。与えられたドリル等をやるだけでなく、図書館でそういった

コーナーを使って勉強することで、子どもの家庭学習の質が変わる。

事務局 「家読」については、ポスターやリーフレットを活用し、町や教育委員会全体で大きな動きを発信していきたい。家庭での基本的な生活習慣の見直しのためにも、関係機関全体で動きや波を起こし、読書に対する興味・関心が低い親達にも自覚や意識を持ってもらいたい。

第三次の子ども読書活動推進計画では、5年間の実施期間の後半には、このような流れに持っていききたい。そのためにも、PTAの協力が必要である。

各公民館にも、読書に関わる動きに参加して欲しいと考えている。例えば公民館祭の際に、地域や学校の読み聞かせボランティアの方々から、読み聞かせ会を実施してもらい、世代を超え、読み聞かせに触れるよい機会としたい。

読書に関しては図書館に一任ではなく、町全体に推進の輪が広がるよう、協力を得ていきたい。

委員 「しょうない秋まつり」等、町のイベントに移動図書館として参加しているが、地域の皆さんが本に親しむ契機となるいい流れだと思う。今後、図書館と連携したいという機関も増えるかもしれない。参加人数や内容等、実施状況の詳細について確認したい。

事務局 参加人数はイベントにより差がある。ブースの場所等で左右され、主催者側との調整が必要である。

移動図書館は、イベントの中に本がある《彩り》の部分が、ひとつの効果かと思っている。人々が足を止めるチャンスとなり、町の中に図書館があるという、町立図書館の存在感の発信にもつながると感じている。

実際ブースに立ち寄るのは子ども達が多いが、それぞれのイベントテーマに合わせた選書に配慮し、一般書も含めてできるだけ効果的なブースづくりに努めている。まだ立ち上げたばかりの事業で、今後更なる改善が必要である。

委員長 今年度は、更に多様な事業に挑戦した1年だった。これまでは、実施の意欲はあっても人員不足で見送っていたと思うが、ここはどうクリアしたのか。職員の人数は増員されない中、お手伝いできるサポーターの育成も大切と考える。事業を拡大した結果、館内業務が手薄となつてはいけない。

事務局 新図書館の整備基本計画内でも、事業拡大と連動した、ボランティアの育成の必要性・重要性についても記載している。

新しい図書館がスタートしてからこの課題に取り組むのではなく、今から、ボランティアの皆さんとの連携や育成については手立てを考えていくべきだと考えている。

## 5 その他

6 閉 会 事務局